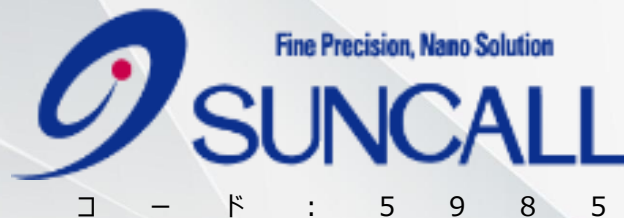


# 2023年3月期 決算説明会

2023年6月6日



# AGENDA

---

**I. 会社概要**

II. 2023年3月期 決算概要

III. 2024年3月期 業績見通し

IV. 中長期の成長戦略

# Purpose 技術をより良い世界のために

## 次世代事業への挑戦

将来

第二次成長期  
(電子情報通信分野への参入)

現ポジション

第一次成長期  
(自動車関連事業の確立)

創業期

1943年

### 創業

飛行機エンジン用  
弁ばねの開発製造を目的として、  
空爆のない京都で創業

### ばね製造

戦中に潜水艦でドイツから運ばれ  
てきて軍の小倉工場にあったもの  
を譲り受けて生産



当時のコイルングマシン  
(京都本社写真)

妥協は許さない  
いのちを乗せるものづくり



エンジン部品



ミッション部品



安全部品

需要は  
今後も拡大

独自の微細加工技術で  
世界のビックデータを管理する

ローラ



光コネクタ



HDDサスペンション



モータ・電気部品  
(EV製品)



環境・エネルギー新素材  
「竹炭」



医療・介護



**社名** : サンコール株式会社 **SUNCALL CORPORATION**

**設立** : 1943年6月

**資本金** : 48億8百万円

**本社** : 京都市右京区梅津西浦町14番地

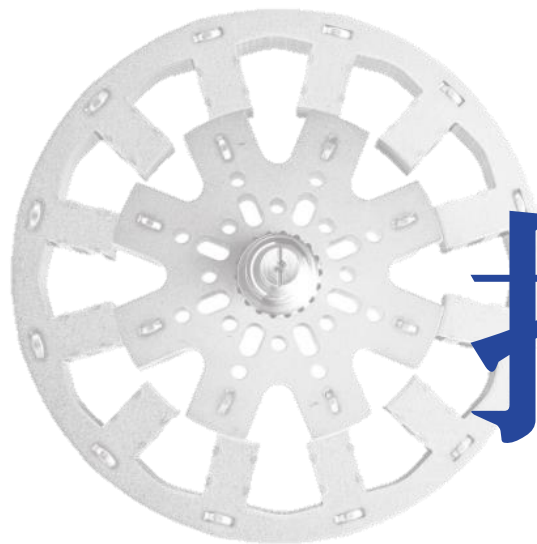
**証券取引所** : 東京証券取引所 プライム市場

**従業員数** : 2,261名 (連結) 663名 (単体)

**主要株主** : 日本マスタートラスト信託銀行(株)  
(退職給付信託口・(株)神戸製鋼所口) 16.6%  
伊藤忠丸紅鉄鋼(株) 15.4%

**(2023年3月末時点)**





技術をより良い世界のために

# 技翔創変



サンコールは『技翔創変』という経営理念の基で企業の飛躍に邁進しております。

## 技翔

技術を飛翔させていくこと

特異な技術無くして、SUNCALLは存在し得ない

## 創変

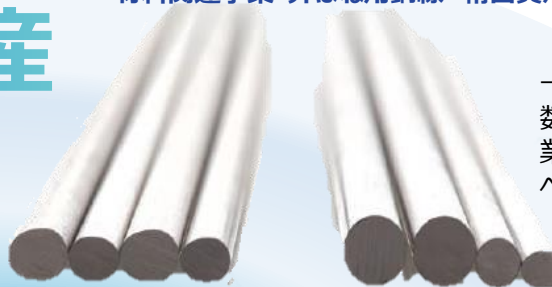
変化を自分で作りだしていくこと

世の中の変化をリードし、創造していく

# 材料から加工まで一貫生産

材料関連事業・弁ばね用鋼線 精密異形線

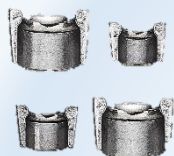
一貫生産を支える当社の芯。  
数々の独自技術に展開するコア事業。  
安心・安全・高品質で新規領域へ



・弁ばね



・バルブコッター



国内シェアトップクラス。材料から加工まで一貫生産により、高品質、1億回の伸縮にも耐えられる高耐久性を実現。

・リングギア・ドライブプレート



国内シェアトップクラス。独自の金属加工技術で高精度を実現。

シートベルト用ゼンマイばね



安全部品

材料から製造するため、精密なトルクの調節が行え、快適性を実現。

ABS用部品  
ABSブレーキシステム用部品



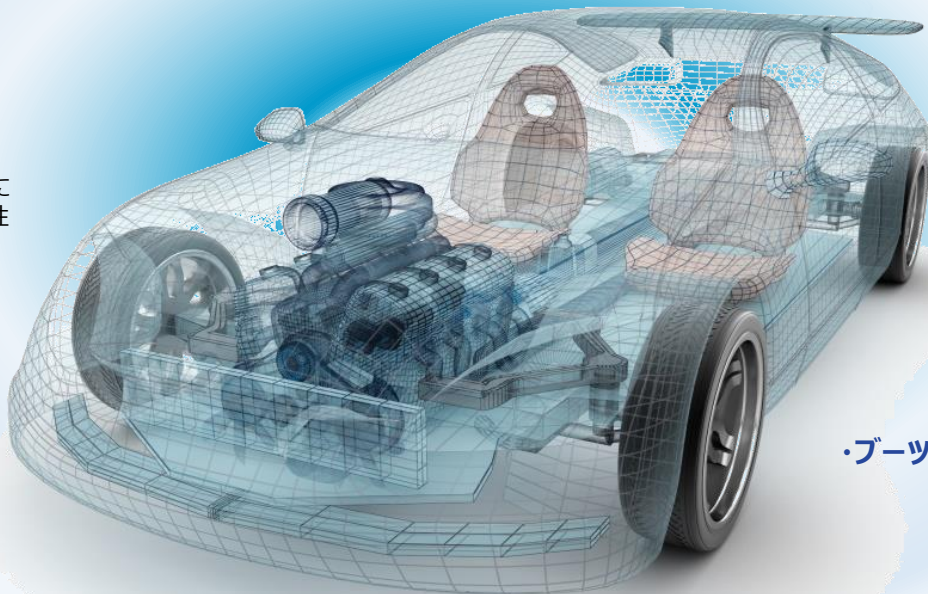
・ブーツランブ



・ミッション用ばね



・各種スプリング・リング



# グローバルに注目されるEVソリューション

## モーターコア・ステーターコア

モーターの芯を構成する部品。当社は自動で一貫生産し、高い生産性を実現。国内メーカーへ搭載。



## リアクトルコイル

EV車、ハイブリッド車の昇圧用コイル。国内メーカー現行ハイブリッド車搭載



## バスリング

塑性加工技術で開発した配線リング。モーターの配線作業を大幅に簡素化

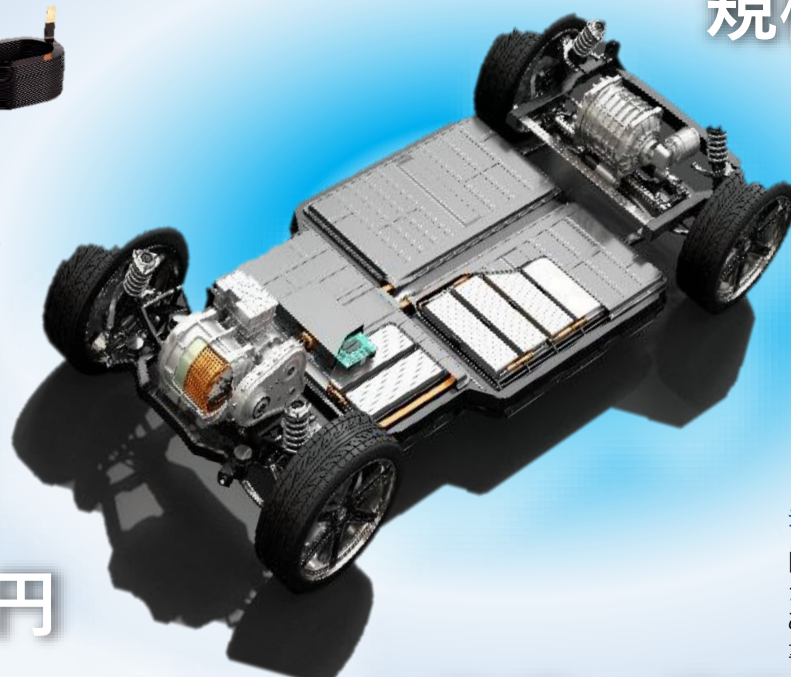


## LED部品

※設計非公開

2021年量産開始。  
LEDの小型化・薄型化を実現。

25年度10億円  
規模



25年度40億円  
規模

25年度25億円  
規模

## バスバー

2013年からハイブリッド車を支えてきた部品。他社にはできない長尺・カスタマイズ品を提供。国産EV車へ搭載決定。



長尺バスバー



塗装バスバー

## 電流センサー

### シャントバスバー

バスバー流れる大電流を高精度測定。シャント方式の一体型センサー。北米・欧州メーカーEVへ搭載。



カスタマイズ形状シャント



コネクタ付シャント

### シャントセンサー・磁気式センサー

国産HVTラック、フォークリフト搭載。シャント方式に加え、あらたな「磁気式センサー」を2023年5月量産開始



ヒューズセンサー



シャントセンサー



磁気式センサー



CROCUS TECHNOLOGY



# データ社会を支えるキーデバイス



## 通信関連製品

光コネクタ 光アダプタ



## プリンター関連製品

長尺・軽量・高精度シャフト  
W/Wトップシエア

ローラー

トルクリミッター  
スプリングクラッチ



# Printer



HDD

## HDD用サスペンション

HDD磁気ヘッドを、数十ナノメートル単位で位置  
決めする極限レベルの精度要求に対応



# Data Center

## 国内15拠点

本社	京都府京都市
<b>生産拠点</b>	
本社工場	京都府京都市
京都南工場	京都府京都市
豊田工場	愛知県豊田市
広瀬工場	愛知県豊田市
<b>国内子会社</b>	
サンコールエンジニアリング株式会社	山梨県南アルプス市
サンコール菊池株式会社	熊本県菊池市
<b>営業拠点</b>	
東京支店	神奈川県横浜市
名古屋支店	愛知県豊田市
西日本支店	京都府京都市
上田営業所	長野県上田市
北関東営業所	栃木県宇都宮市
浜松営業所	静岡県浜松市
近畿営業所	京都府京都市
西日本営業所	広島県広島市

## 海外8カ国18拠点

国	地域	出資比率	生産品目
アメリカ	インディアナ州	100%	弁ばね、リングギアほか
	サウスカロライナ州	100%	光通信部品（販売拠点）
	テキサス州	100%	
メキシコ	アグアスカリエンテス州	100%	弁ばね用材料、リングギア
	アグアスカリエンテス州	50%	シートベルト用ぜんまいばね
中国	広州	100%	弁ばね、リングギアほか
	広州	100%	弁ばね用材料（販売拠点）
	佛山	25%	弁ばね用材料
	天津	100%	リングギア
	深圳	100%	プリンター用ローラー、光通信部品ほか
	香港	100%	
タイ	チョンブリ県	100%	弁ばね、リングギア シートベルト用ぜんまいばね プリンター用ローラーほか
ベトナム	ハノイ	100%	プリンター用ローラーほか
韓国	梁山	49%	シートベルト用ぜんまいばね材料
フィリピン	マニラ	100%	HDD用サスペンション（駐在員事務所）
ドイツ	ミュンヘン	100%	EV関連、光通信関連部品（販売拠点）

### 2022年8月より株式会社アイメスと資本業務提携いたしました

社名	株式会社アイメス	本社所在地	神奈川県藤沢市
出資比率	41.5%	海外拠点	フィリピン、タイ



# AGENDA

---

I. 会社概要

II. 2023年3月期 決算概要

III. 2024年3月期 業績見通し

IV. 中長期の成長戦略

為替影響により売上高は増収となったが、営業利益は自動車生産の回復遅れ及び下期からのHDD用サスペンションの売上計画未達があり減益

**売上高 53,399百万円**

(前期比+5,960百万円/ +12.6% / 内為替影響+5,617百万円)

**営業利益 304百万円**

(前期比▲345百万円 / ▲53.1%)

## 自動車分野

売上前期比+10.2%

- 材料関連  
メキシコ子会社の鋼材価格高騰分の価格転嫁及び為替影響により前期比増収
- 自動車関連  
中国ロックダウンや半導体不足による自動車減産の影響を受けるが、電動化関連製品等の増加により増収

## 電子情報通信分野

売上前期比+18.0%

- HDD用サスペンション  
景気後退懸念によるデータセンター向け投資抑制の影響が発生したが、為替影響により前期比増加
- プリンター関連  
リモートワークへの移行による家庭用特需増加のあった前期比で減少したが、下期から増加
- 通信関連  
北米・アジア市場の需要回復や新規拡販により増収

## ◆ 前期比較

<b>売上高</b>	自動車分野では生産回復が停滞している中、鋼材価格高騰分の価格転嫁および円安の影響もあり増収。HDD用サスペンションは景気後退懸念による投資抑制の中、円安及び上期の高需要により前期比増収。
<b>営業利益</b>	鋼材値上げやエネルギー・輸送コストアップ、HDD用サスペンションでの新機種増産準備にかかる費用の増加及び訴訟対応に要する弁護士費用・その他の費用などの影響により53.1%減
<b>経常利益</b>	持分法投資による利益+117百万円、円安による為替差益+77百万円
<b>当期純利益</b>	メキシコ子会社補償費用▲1,838百万円、受取保険金+1,318百万円、投資有価証券売却益+224百万円

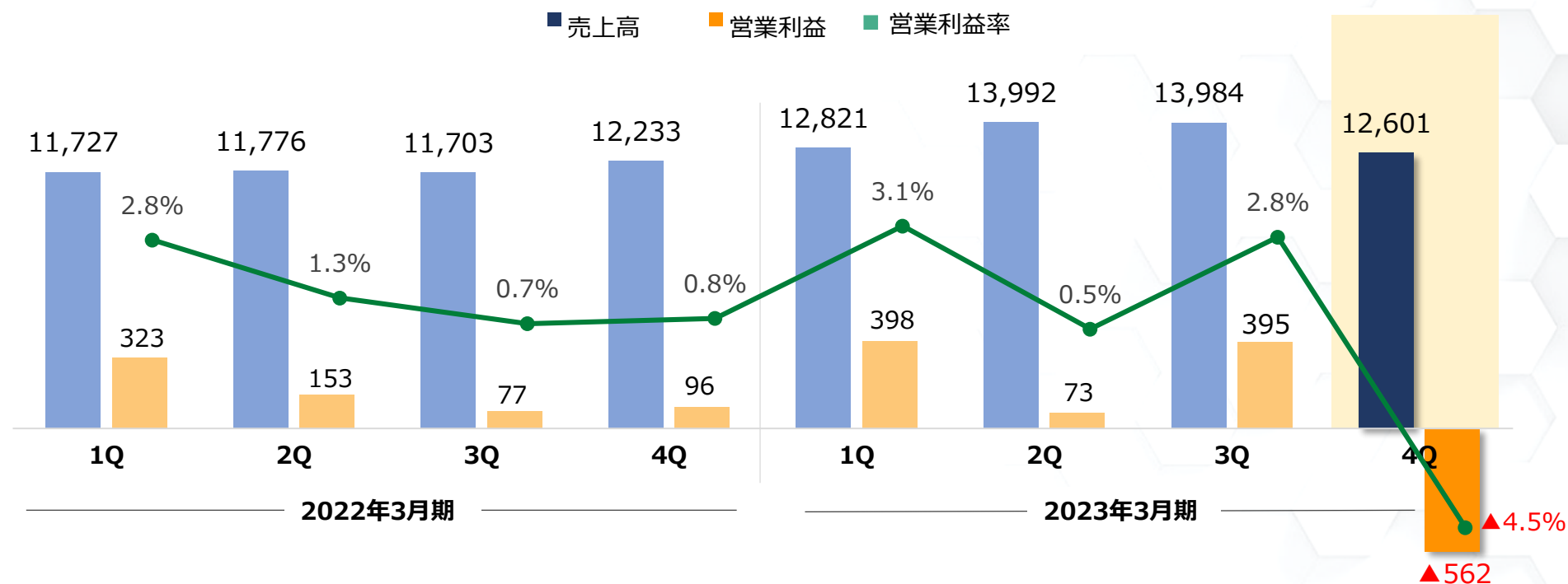
単位：百万円	2022年3月期		2023年3月期				
	実績	期初予想 (2022年5月開示)	2月10日 公表予想	実績	前期比	期初予想比	2月10日 公表予想比
売上高	47,438	57,000	53,000	<b>53,399</b>	+5,960	▲3,601	+399
営業利益	649	2,000	600	<b>304</b>	▲345	▲1,696	▲296
経常利益	1,022	2,100	1,300	<b>848</b>	▲173	▲1,252	▲452
当期純利益	904	1,500	1,000	<b>557</b>	▲347	▲943	▲443
一株当たり利益	29.34	49.96	33.29	<b>18.57</b>	◆ 対2月10日公表予想比 主要乖離要因		
平均為替レート	112.4円/ドル 130.6円/1-円	120.0円/ドル 132.0円/1-円	134.9円/ドル 138.9円/1-円	<b>135.5円/ドル 141.0円/1-円</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギーコスト上昇分の価格転嫁不足</li> <li>HDD用サスペンションの訴訟対応に要する弁護士費用他</li> <li>HDD用サスペンション新機種増産準備にかかる費用の増加</li> <li>持分法投資損益減</li> <li>4Q為替差損の発生</li> </ul>		



## 対3Q比較

◆ 売上高	自動車生産の回復遅れによる受注減および景気後退懸念によるHDD用サスペンションの減少
◆ 営業利益	自動車分野での鋼材価格高騰分の価格転嫁一括遡及による3Q改善 HDD用サスペンションの売上減少による利益減及び訴訟対応にかかる弁護士費用・その他費用の増加

### 四半期別業績の推移



◆ 自動車分野	材料関連	為替影響及びメキシコ子会社の鋼材価格高騰分の価格転嫁により前期比増収
	自動車関連	中国ロックダウンや半導体不足等供給制約の継続による自動車生産の減産影響あったものの、バスバー等電動化関連やLED関連製品等大きく増加し、前期比増収
◆ 電子情報通信分野	HDD用サスペンション	上期はデータセンター向け投資の高い需要が継続していたものの、下期景気後退の懸念によりデータ向け投資抑制の影響が発生。全体として円安影響があり前期比増収
	プリンター関連	新型コロナウイルス感染症の影響によるリモートワークへの移行により家庭用の需要増加があった前期からは減少していたが、下期から増加
	通信関連	主な市場である北米・アジアの需要回復や新規拡販により前期比増加

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期			
	実績	実績	(内為替影響)	前期比	
売上高	47,438	<b>53,399</b>	(+5,617)	+5,960	+12.6%
自動車分野	30,777	<b>33,918</b>	(+2,264)	+3,140	+10.2%
材料関連	6,447	<b>7,430</b>	(+934)	+983	+15.2%
自動車関連	24,330	<b>26,487</b>	(+1,329)	+2,157	+8.9%
電子情報通信分野	15,781	<b>18,734</b>	(+3,348)	+2,862	+18.0%
HDD用サスペンション	10,948	<b>12,931</b>	(+2,431)	+1,983	+18.1%
プリンター関連	3,694	<b>4,239</b>	(+682)	+544	+14.7%
通信関連	1,228	<b>1,563</b>	(+234)	+334	+27.3%
その他	789	<b>746</b>	(+3)	▲42	▲5.4%

# 2023年3月期 連結貸借対照表

◆ 固定資産増加	積極的な設備投資による有形固定資産増加+1,584百万円 主に資本業務提携による関係会社株式+1,922百万円 売却による投資有価証券▲761百万円
◆ 流動負債増加	買掛金▲128百万円、短期借入金+2,626百万円、未払金+1,227百万円
◆ 純資産増加	当期純利益+603百万円、配当金▲668百万円 その他有価証券評価差額金▲213百万円、為替換算調整勘定+1,263百万円

単位：百万円	2022年3月期		2023年3月期	
	実績		実績	前期末比増減
流動資産	28,328		31,455	+3,127
現預金	7,510		7,707	+197
売上債権	11,076		10,941	▲135
棚卸資産	8,463		10,813	+2,350
固定資産	29,602		32,286	+2,681
<b>総資産</b>	<b>57,932</b>		<b>63,735</b>	<b>+5,803</b>
<b>負債合計</b>	<b>20,749</b>		<b>25,696</b>	<b>+4,946</b>
流動負債	17,471		21,324	+3,853
有利子負債	6,031		8,663	+2,632
固定負債	3,278		4,372	+1,093
有利子負債	1,186		2,368	+1,181
<b>純資産合計</b>	<b>37,182</b>		<b>38,038</b>	<b>+856</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>57,932</b>		<b>63,735</b>	<b>+5,803</b>

# 2023年3月期 キャッシュ・フローの状況

◆営業C/F	税引前当期純利益の減少、メキシコ子会社補償案件での支払VAT増加などにより前期比▲1,478百万円
◆投資C/F	HDD用サスペンションへの設備投資、及びアイメス社への資本参加により▲4,946百万円、前期比▲123百万円
◆財務C/F	設備投資及びアイメス社株式取得に伴う借入金の増加により+1,626百万円

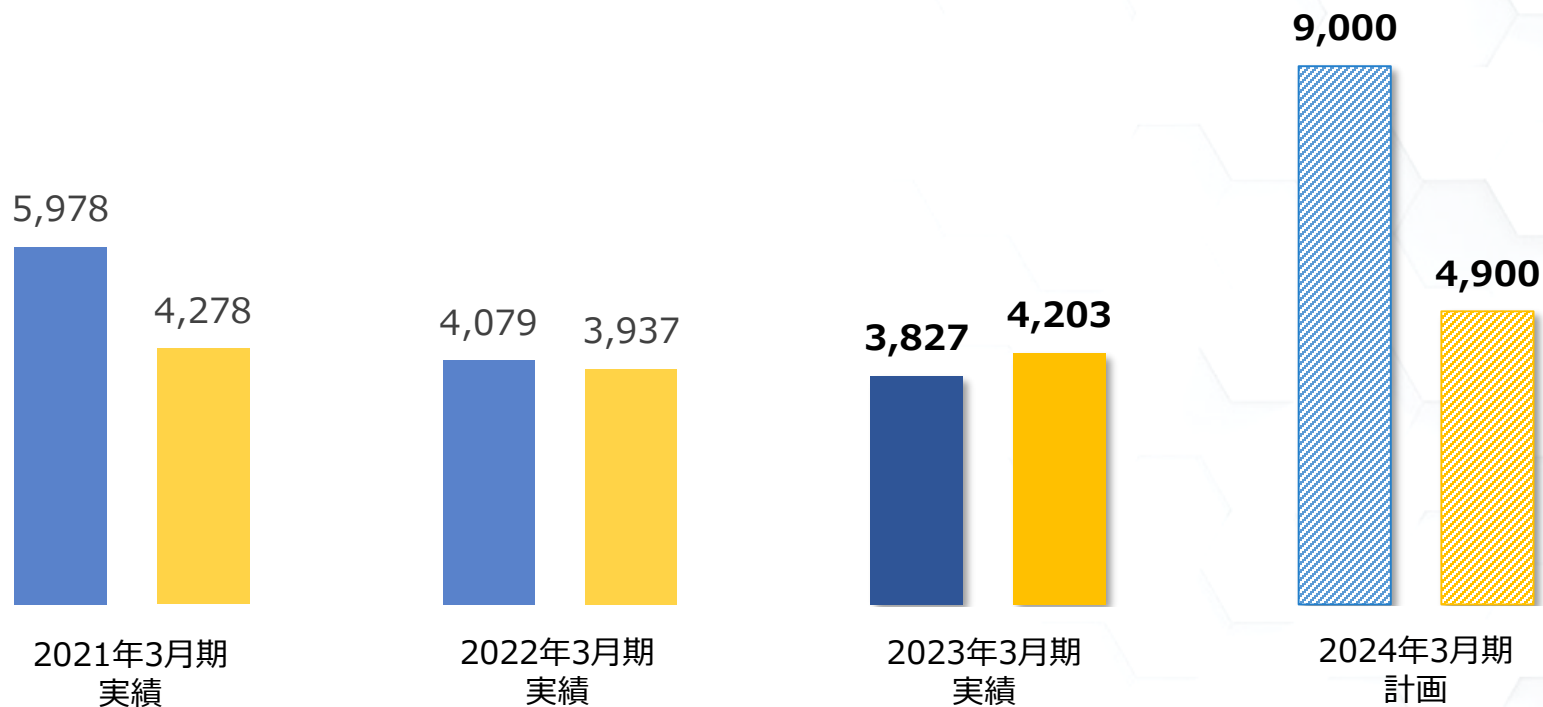
単位：百万円	2022年3月期		2023年3月期	
	実績		実績	前期比増減
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,170</b>		<b>1,691</b>	<b>▲1,478</b>
税引前当期純利益	1,431		934	▲496
減価償却費	3,937		4,203	+266
売上債権増減	▲832		394	+1,227
棚卸資産の増減額	▲1,708		▲1,799	▲91
仕入債務増減	954		▲363	▲1,317
投資有価証券売却益	▲401		▲625	▲223
その他の流動資産の増減額	▲141		▲582	▲441
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>▲4,822</b>		<b>▲4,946</b>	<b>▲123</b>
固定資産取得による支出	▲5,237		▲4,007	+1,229
関係会社株式取得による支出	0		▲1,719	▲1,719
投資有価証券売却による収入	410		845	+434
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,154</b>		<b>2,780</b>	<b>+1,626</b>
短期借入金増減	3,377		2,440	▲937
長期借入金増減	▲691		1,217	+1,908
自己株式の取得	▲704		0	+704

◆2023年3月期	HDD用サスペンションを中心に継続した設備投資を実施し、一部完成遅れが発生
◆2024年3月期	総額90億円の設備投資（内HDD用サスペンションは54億円）を計画

## 設備投資額・減価償却費

(百万円)

■ 設備投資額      ■ 減価償却費



※上記設備投資額については完成ベース

# AGENDA



I. 会社概要

II. 2023年3月期 決算概要

**III. 2024年3月期 業績見通し**

IV. 中長期の成長戦略

## ◆ 対前年同期比

通期売上高	HDD用サスペンションは景気後退懸念によるデータセンター向け投資抑制から年度半ばより回復する見込み。また、自動車分野では自動車生産の回復及び鋼材価格、エネルギー・輸送コストアップの価格転嫁などにより前期比増収
営業利益	自動車分野の改善およびEV関連製品の売上増加により増益
経常利益	営業外損益で持分法投資による利益+112百万円

単位：百万円	2023年3月期	2024年3月期					対23/3期 実績比	対中計比
	実績	中期経営計画	見通し					
			通期	上期	下期	通期		
売上高	53,399	59,300	27,000	31,500	58,500	+5,101	▲800	
営業利益	304	3,400	▲460	1,110	650	+346	▲2,750	
経常利益	848	—	▲340	1,290	950	+102	—	
当期純利益	557	—	▲240	1,040	800	+243	—	
一株当たり利益	18.57	—	▲7.98	34.59	26.61	◆ 対GGP24中計比 主要乖離要因		
平均為替レート	135.5円/ドル	110.0円/ドル	130.0円/ドル			・ 主に電子情報通信分野の売上物量減		
	141.0円/1-0	125.0円/1-0	140.0円/1-0					

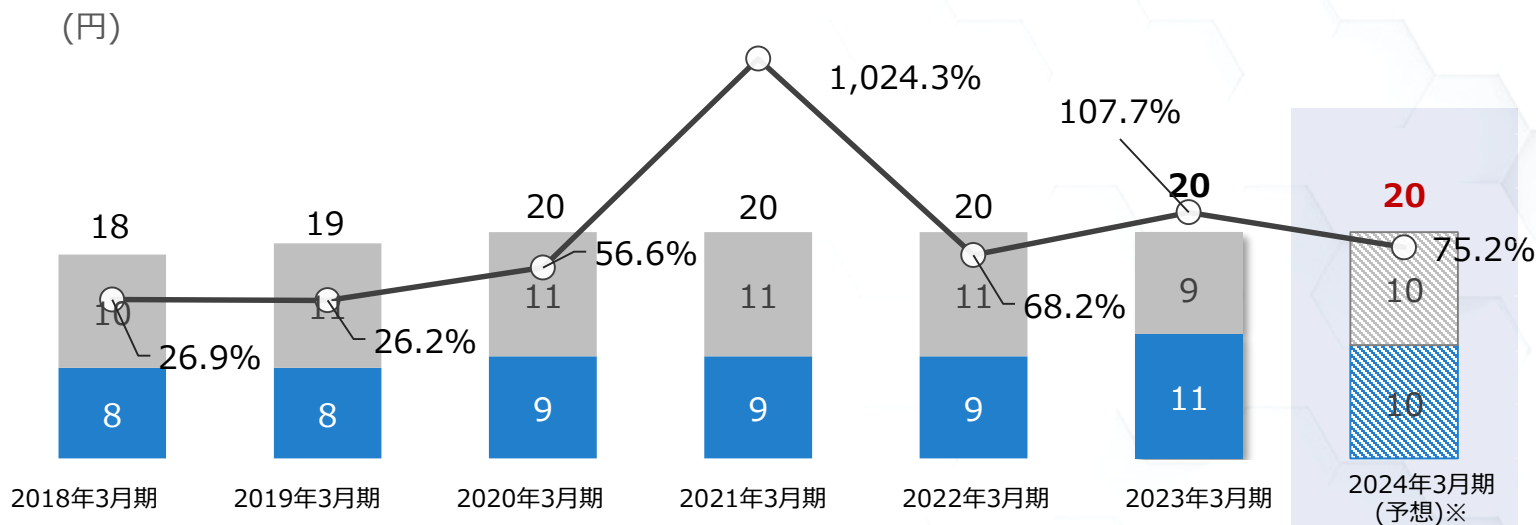
## ◆ 対中計比較

<b>EV等電動化関連事業</b>	バスバーやLED部品等電動化関連製品の伸長が加速、需要好調により中計比増収見込み
<b>電子情報通信関連事業</b>	HDD用サスペンションが円安による為替影響+約27億円があるものの、データセンター向け投資抑制の影響により中計比▲68億円減少見込み
<b>既存自動車関連事業</b>	自動車電動化が進む中、為替影響+約30億円を除くと売上規模は中計通りに維持

単位：百万円	2023年3月期	2024年3月期	2024年3月期	対2023年3月期	対2024年3月期
	実績	GGP24中期計画	見通し	実績比	中計比
売上高	53,399	59,300	<b>58,500</b>	+5,101	▲800
EV等電動化関連事業	2,970	3,500	<b>4,140</b>	+1,170	+640
電子情報通信関連事業	19,291	25,700	<b>21,020</b>	+1,729	▲4,680
HDD用サスペンション	12,931	18,790	<b>14,670</b>	+1,739	▲4,120
プリンター関連	4,239	3,720	<b>3,850</b>	▲389	+130
通信関連	1,563	2,270	<b>1,930</b>	+367	▲340
その他	556	920	<b>570</b>	+14	▲350
既存自動車関連事業	31,137	30,100	<b>33,340</b>	+2,203	+3,240
材料関連	7,430	7,000	<b>7,470</b>	+40	+470
自動車関連	23,706	23,100	<b>25,870</b>	+2,164	+2,770



<b>財務・資本戦略</b>	資本収益性とBSマネジメントを推進すべく、自己資本の積み増しを抑制するための積極的な株主還元を実施
<b>配当方針</b>	<b>ROE9.0%を超過するまで配当性向を75%とする</b> （配当下限は20円を継続）



中間配当	8円	8円	9円	9円	9円	<b>11円</b>	<b>10円</b>
期末配当	10円	11円	11円	11円	11円	<b>9円</b>	<b>10円</b>
年間配当合計	18円	19円	20円	20円	20円	<b>20円</b>	<b>20円</b>

※今後業績予想が修正される場合、配当方針に基づき修正されることとなります。

# AGENDA

---

I. 会社概要

II. 2023年3月期 決算概要

III. 2024年3月期 業績見通し

**IV. 中長期の成長戦略**



## 2030年の事業ポートフォリオ確立に向けた実効的な戦略の加速

### 事業戦略

#### EV等電動化関連成長事業

－グローバルに売上拡大・次世代主力事業へ－

- ・ 電動車ニーズに応えるべく「バスバー」、「シャントバスバー」の量産拡大
- ・ EV等電動化製品の欧州・中国・米国での拡販の展開

#### 電子情報通信関連成長事業

－飛躍的成長の実現・利益成長の追求－

- ・ 顧客需要への対応に向けた設備投資継続と生産効率向上
- ・ 大容量ハードディスクドライブの需要に応えるべくサスペンションの生産能力強化
- ・ 通信関連/プリンター関連は製品開発、工法改善を通じ、生産効率を向上させる

#### 自動車関連既存事業

－産業構造の変化に対応・収益力改善－

- ・ 製品別に市場成長性と収益性を検証
- ・ 徹底的な製品別収支管理により、既存案件の収益力改善に注力
- ・ 生産・営業拠点の最適化を検討

### 資本戦略

## 最適な資本構成を意識したBSマネジメントの推進

- ・ ROE9%を超過するまでは配当性向75%を維持し、自己資本の積み増しを抑制
- ・ 資本コストを意識した投資判断の徹底

GGP24定量目標

売上高

630億円

営業利益率

7.1%

ROE

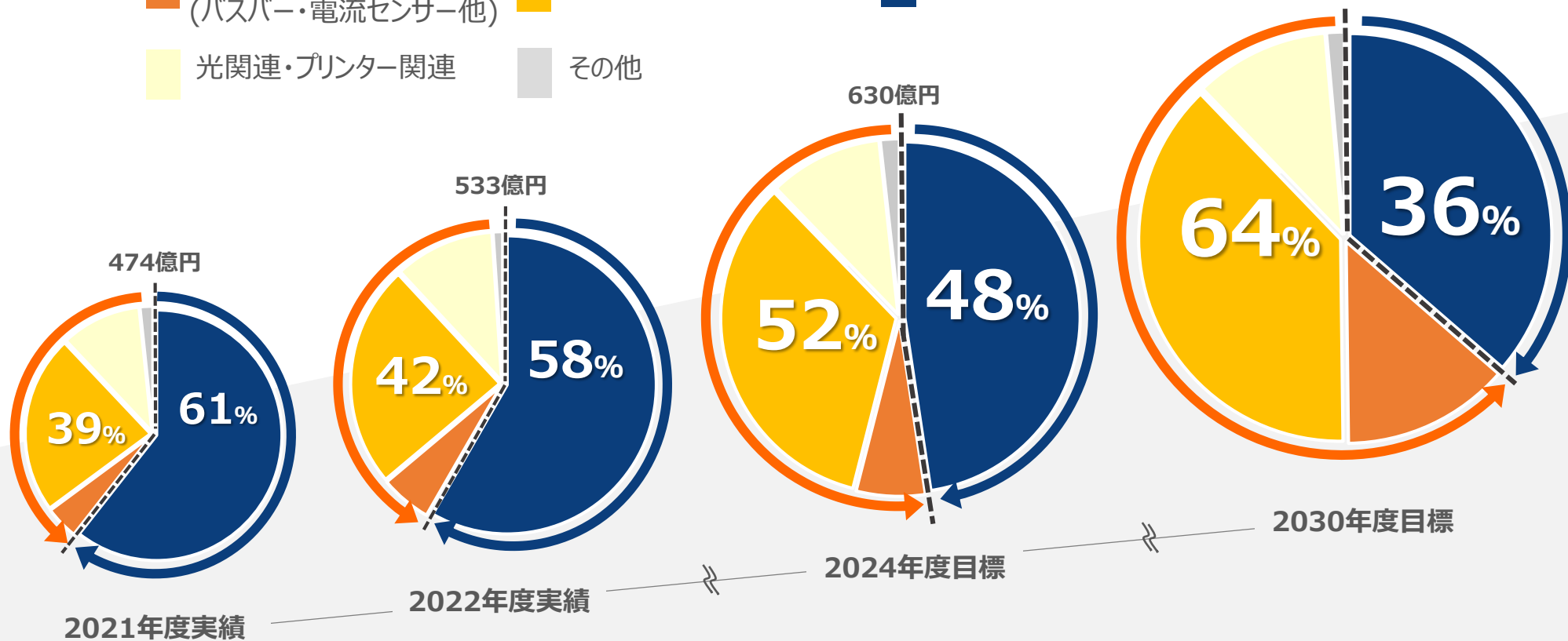
9.0%

## EV等電動化関連成長事業および 電子情報通信関連成長事業

- EV等電動化関連製品 (バスバー・電流センサー他)
- HDD用サスペンション
- 光関連・プリンター関連
- その他

## 自動車関連既存事業

- 既存製品 (弁ばね・弁ばね用Wire・リングギア他)



※割合は対売上高

## 2023年度GGP24中計進捗見通し

全体として円安によるプラス影響を受けるが、主に電子情報通信分野の売上物量減により売上高、営業利益ともに2023年度GGP24中計目標未達の見通し。各事業の状況は以下の通り。

### ◆EV等電動化車関連事業

#### 対2023年度 GGP24中計比

- ・電流センサーは磁気式センサーの販売開始他、好調に伸長。
- ・バスバーは2025年度開始の将来EVプログラムに採用決定し、中計比で大きく増加のため生産拠点拡充を計画。

#### 今後の見通しおよび対策

- ・世界的な自動車電動化の流れは継続。
- ・更なる高付加価値センサーの開発及び製品ラインナップの拡充。
- ・電流センサーの拡販体制整備に向けた欧州・北米での販売拠点開設検討、国内での開発・生産体制整備を推進。

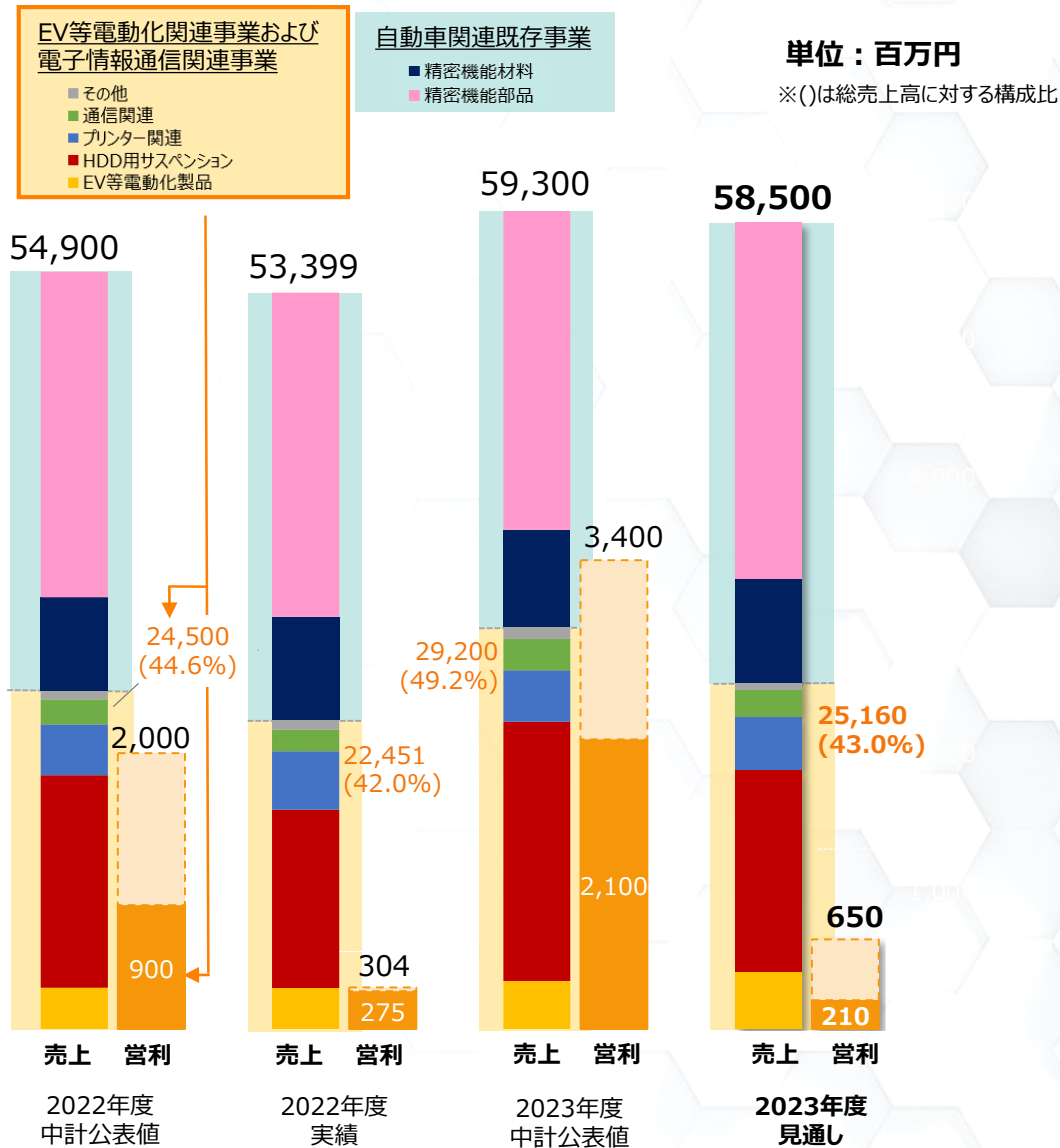
### ◆電子情報通信関連事業

#### 対2023年度 GGP24中計比

- ・HDD用サスペンション及び通信関連製品は円安による為替影響を受ける一方で、データセンター投資抑制の影響により中計比で減少

#### 今後の見通しおよび対策

- ・データセンター投資抑制による一時的な受注減は2023年度半ばより回復を見込む。
- ・サスペンション事業は市場回復に備え、資本業務提携したアイメス社との協業により生産性改善を強力に推進。
- ・通信関連事業については生産性改善と市場回復後の受注拡大に向けた営業力強化を推進。



## 自動車関連既存事業

- 精密機能材料
- 精密機能部品

## EV等電動化関連事業および電子情報通信関連事業

- その他
- 通信関連
- プリンター関連
- HDD用サスペンション
- EV等電動化製品

単位：百万円

※()は総売上高に対する構成比

### ◆自動車関連既存事業

#### 対2023年度 GGP24中計比

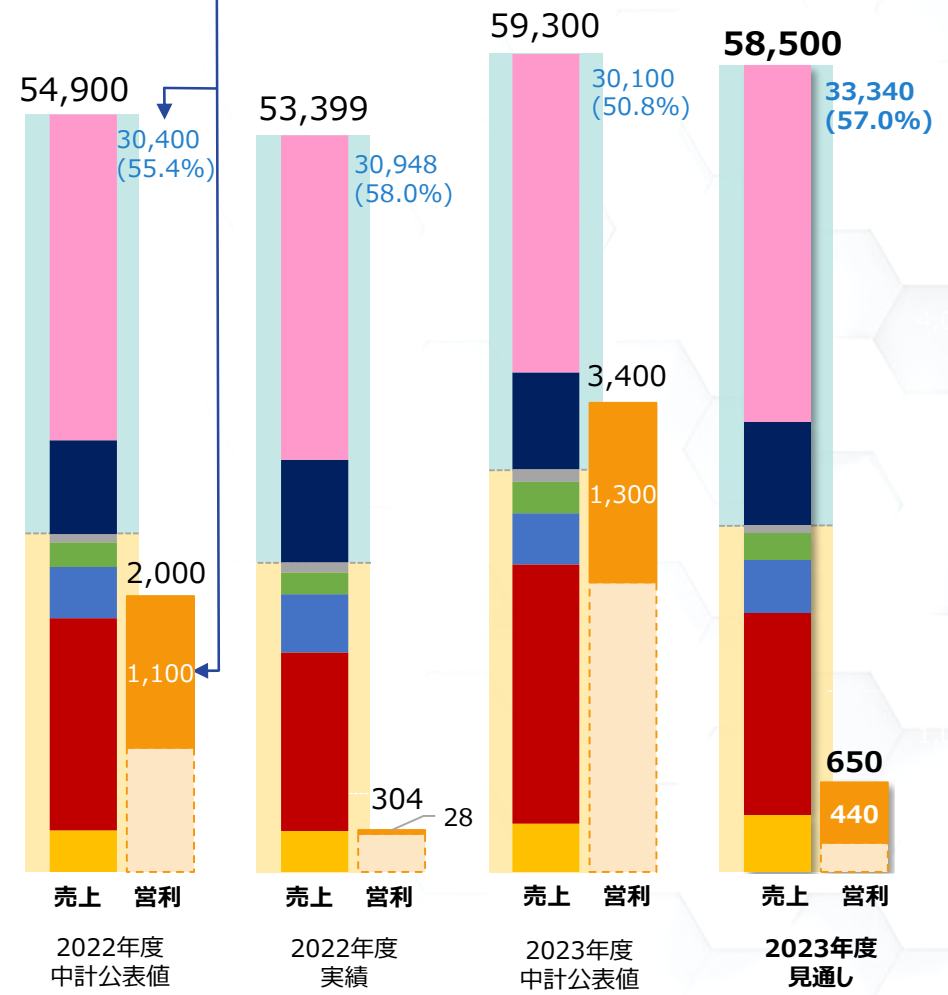
・自動車電動化が進む中、為替影響+30億円を除くと売上規模は中計通りに維持。一方で鋼材価格高騰、エネルギー・輸送コスト高騰が利益を圧迫

#### 今後の見通し

自動車電動化の加速により内燃機関構成部品の市場成長性は見込めないものの、売上規模は維持。

#### 収益改善に向けた対策

- ・エネルギー費や副資材費等高騰分の価格転嫁
- ・資本収益性の観点から製品戦略の見直し
- ・生産性最適化に向けた拠点統廃合の検討
- ・投資や人員等の経営資源の配分見直し





# 「材料から製品までの一貫生産」守り続けた技術から 新たな領域を目指します。>>>>

溶接 曲げ



ダイス成型



圧延

精密塑性加工技術

■5G・IOT化により拡大する  
データ社会への対応

光通信事業事業  
HDD用サスペンション事業

■気候変動への対応

バスバー事業  
電流センサー事業  
車載LED事業  
竹炭サステナブル事業

■高齢化社会への貢献

リハビリロボット事業  
超音波センサ(開発)

# 5G・IOT化により拡大するデータ社会への対応 HDD用サスペンション事業



サンコール電子情報通信分野の柱。クラウドストレージ容量需要の大幅な伸びに対して、ニアライン向けHDDの需要は今後も増加。



P.IMES社

2022年8月

アイメス社との資本業務提携契約により 生産技術力の向上



2022年度 売上129億円

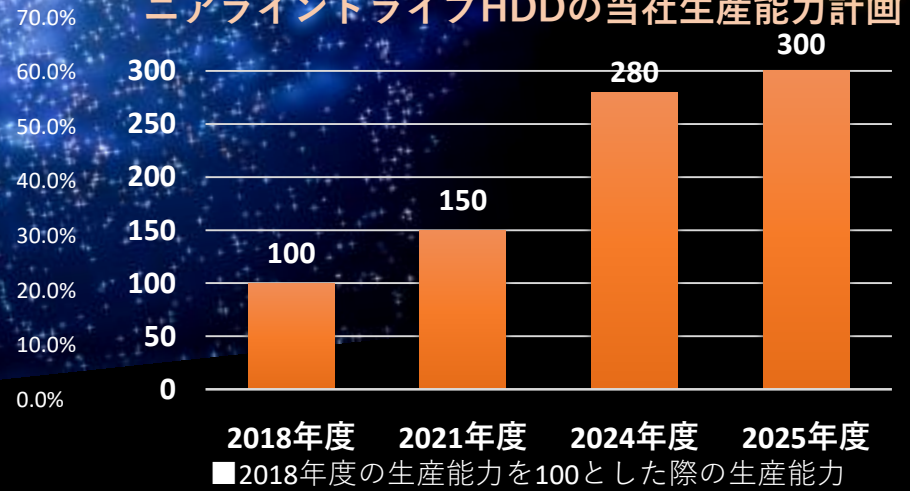
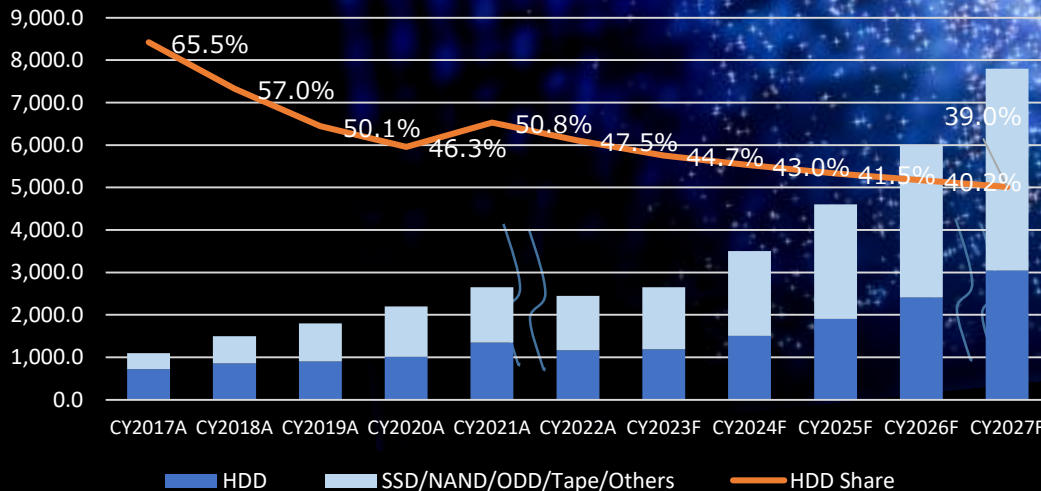
生産能力を2021年度対比 **約2倍** に増強する計画

2023年度 売上 147億円

2023年半ばから市場回復による **売上拡大**

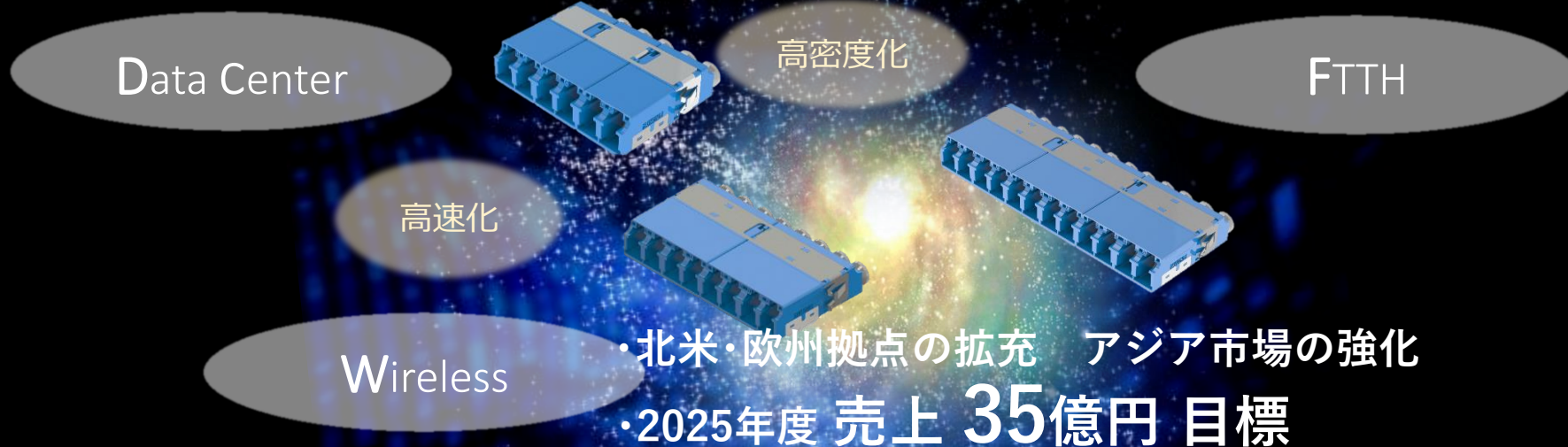
ニアラインドライブHDDの当社生産能力計画

## データストレージの容量推移

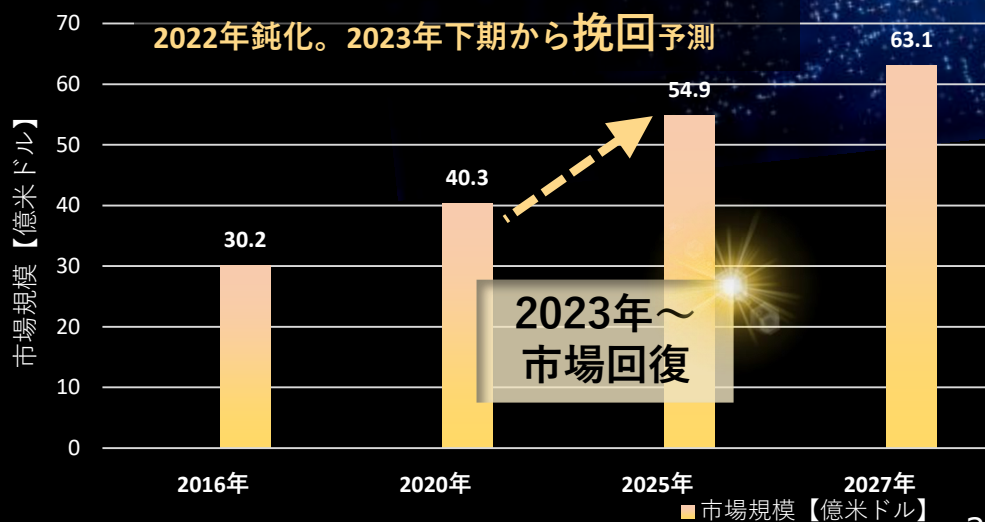




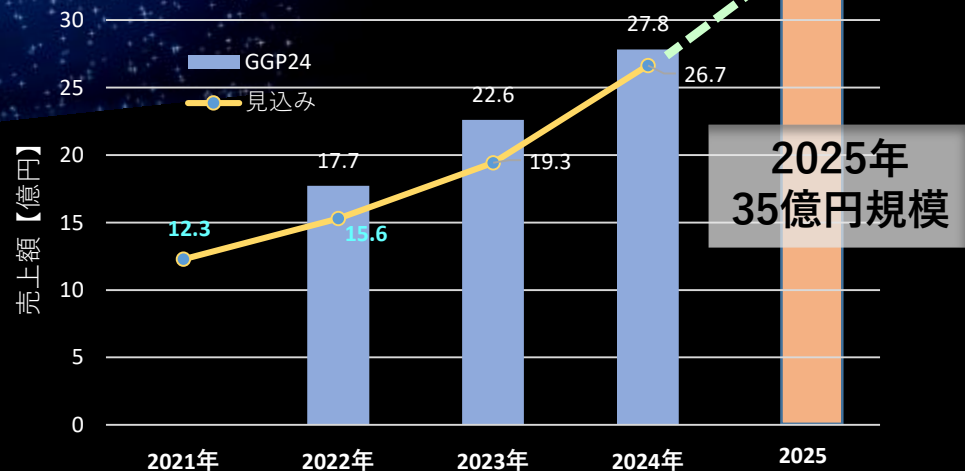
高密度化が求められる光通信ファイバー市場。



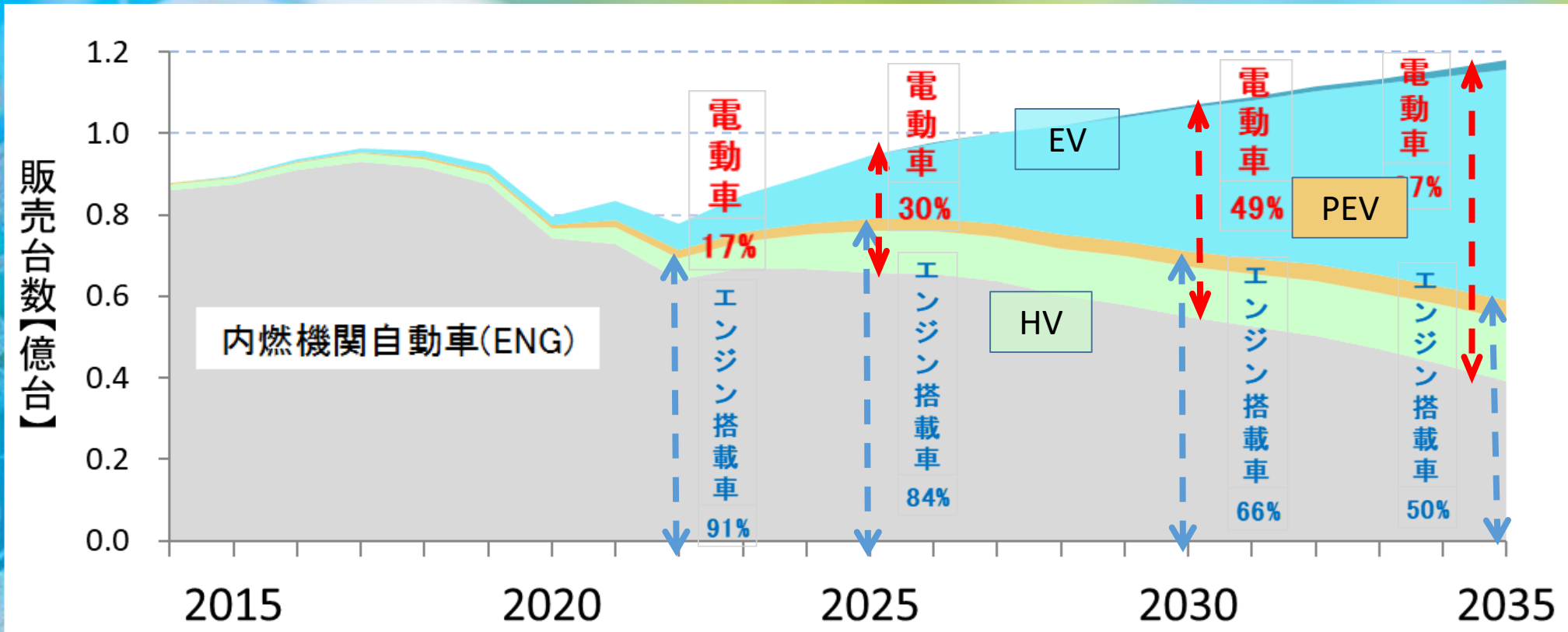
世界の光コネクタ市場予測



光通信コネクターGGP24比売上【億円】



# 2030年、EV化の世界に向けて



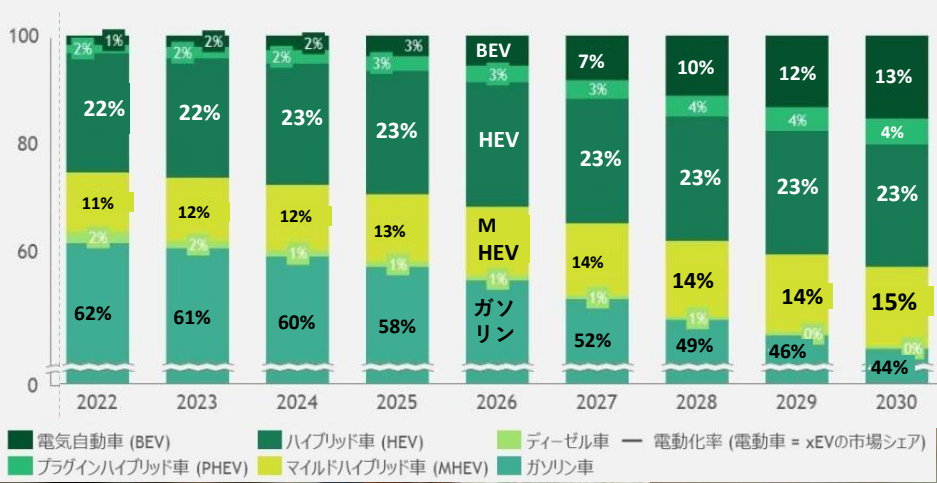
【Data Source : FOURIN & Marklines】

	2022年	2025年	2030年	2035年
電動車	FCV: 0%	FCV: 0%	FCV: 1%	FCV: 2%
	EV: 8%	EV: 16%	EV: 33%	EV: 48%
	PHV: 3%	PHV: 3%	PHV: 3%	PHV: 4%
	HV: 6%	HV: 11%	HV: 12%	HV: 13%
	ENG: 82%	ENG: 70%	ENG: 51%	ENG: 33%



## 2013年量産開始。国産ハイブリッド車を支えてきたEV事業の柱です。

～2030年 国内新車販売台数の割合 (%)

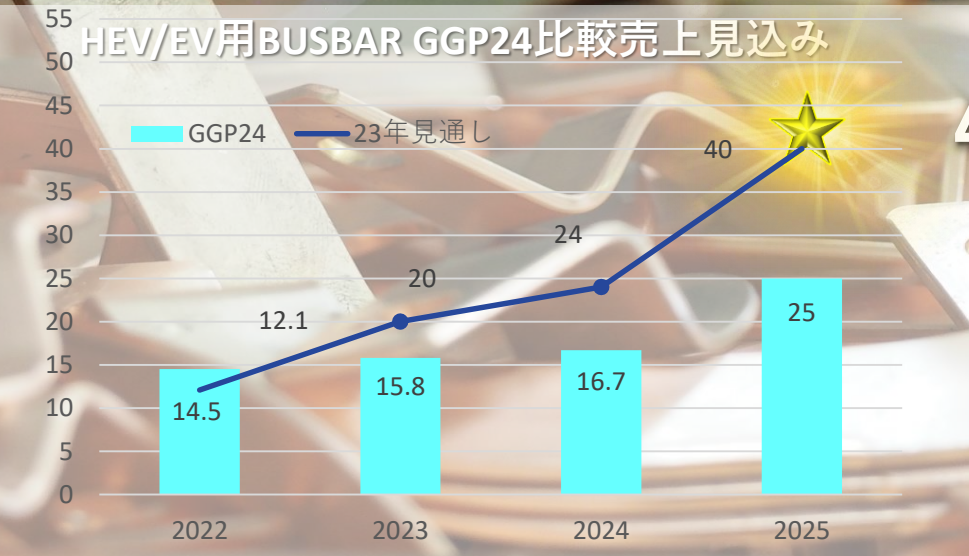


### 日本ではハイブリッドは引き続きシェアを維持する

日本での新車販売台数における電動車の割合は、2025年までに40%を超え、2030年に55%となると見込んでいます。日本では、ハイブリッド車 (HEV) のシェアが2019年時点で既に22%を占めており、2030年でも23%と引き続きシェアを維持すると予測されています (世界では2030年に7%)



2022年度から  
国内メーカー  
2社(EV・HEV車)  
新規量産中



# 2025年度 40億円規模

2025年度開始  
最新EVプログラム  
採用決定

2023年4月、九州の子会社 サンコール菊池(株)で量産開始。  
2025年にむけて大型投資を実施。



★NEW  
サンコール菊池(株)





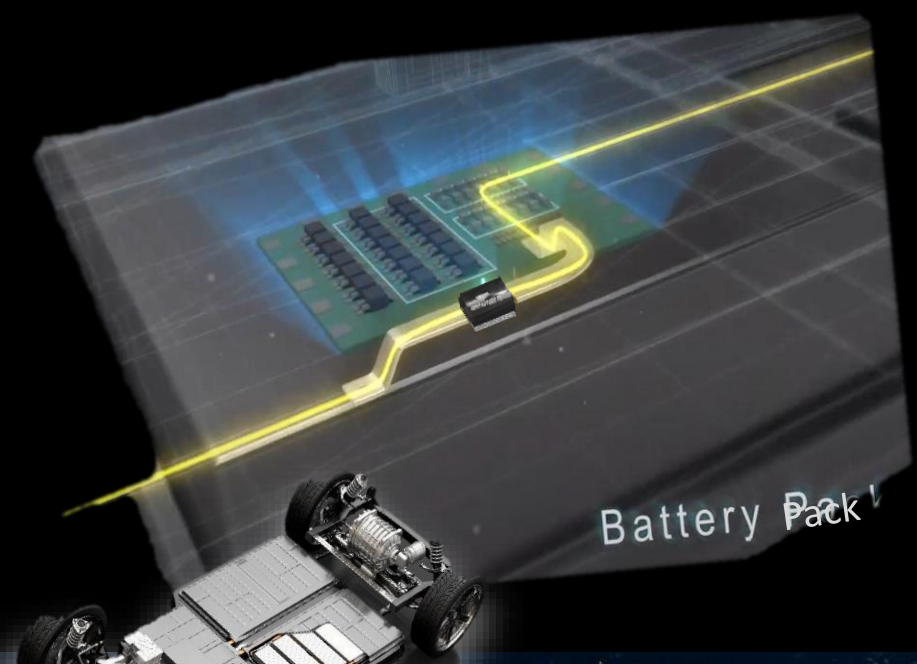
欧州・米国・中国。電動化の進む海外EV車での採用で急加速。



Industrial



Energy



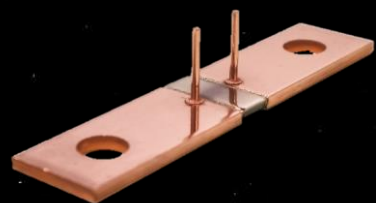
Battery Pack



EV

- 2014年 **シャント方式センサー開発**
- 2017年 国内向け電動フォークリフト採用
- 2017年 米国向けフォークリフト採用
- 2019年 NITE大型蓄電試験施設採用
- 2019年 国内向けHVTトラック採用
- 2020年 太陽光発電蓄電池システム採用
- 2020年 欧州向けAGV(自動搬送機) 採用
- 2021年 欧州EVレース車採用
- 2021年 北米EV乗用車採用
- 2022年 **コネクタータイプ開発**  
**磁気式センサー開発**

今年8月に新製品コネクタ付きシャントをリリース。シャント方式に加え、新たな方式である磁気式センサーを開発しました。



Shunt Busbar



Shunt Sensor



Shunt Busbar Connector-type

2022年8月リリース。  
PCB(基盤)を直接搭載し精度UP。端子ピン  
いらずでワンタッチで接続できます。



Magnetic Sensor

2023年2月リリース。  
磁気方式にて非接触で大電流を検知できる画期的な  
センサー。消費電力の少ないエコなセンシングを  
実現しました。



Dual sensor series  
Shunt & magnetic

シャントと磁気を兼ね備えた  
デュアル方式センサー。  
高い信頼性の求められるこれからのEVに。



## EV先進地域でのグローバル戦略の基盤を固めます。

2023年新拠点へライン増設  
生産能力1.8倍へ増強

### 中国

2020年 SGT(サンコール広州貿易会社)へ  
シャント販売会社の設置

さらなる能増ライン

※国内選定中

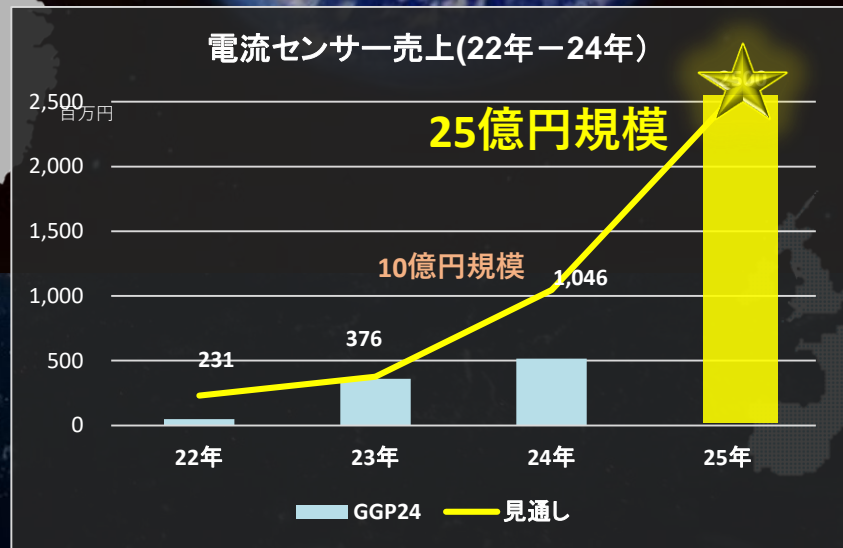


9月 北米展示会  
2023年 営業事務所開設  
(構想中)

### 欧州

2022年  
6月 Battery show出展  
11月 Electronica show出展

2023年  
7月 ドイツ販売会社**設立決定**  
Suncall Europe



文科省COIプロジェクトのひとつとして、京都大学と共同研究開発した歩行学習支援ロボット。

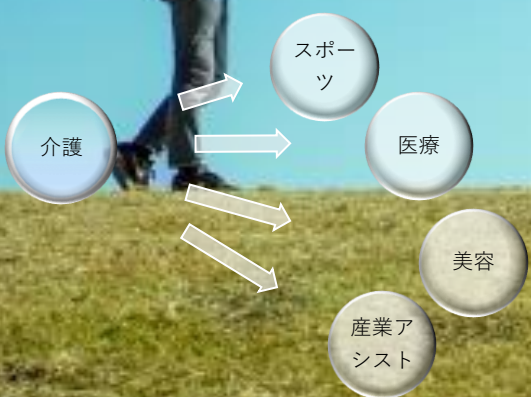
2020年に介護機器モデルとして発売、  
2022年には無線タブレットタイプを新発売。

全国のリハビリテーション施設だけでなく、老人ホーム等介護施設で採用され、好評をいただいています。

装着イメージ



◇さらなるサービス展開を計画中。  
歩きたい、という願いを取りこぼさない。

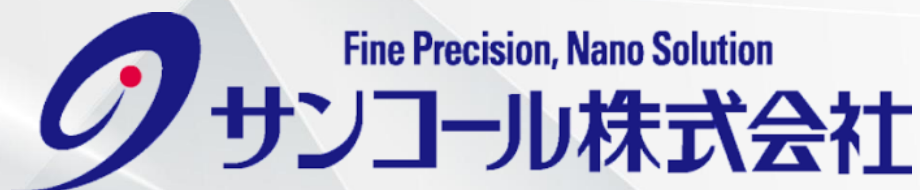


オルソロボットでのリハビリ風景  
(無線タブレットタイプ)



## 【ご注意】

本日の説明資料には、当社の事業に関する業績見通し、将来の計画・方針等に関する記述が含まれていますので、株券等の取引を行う際には、金融商品取引法その他の法令の遵守をお願い申し上げます。また、将来予想は、現時点で入手できる情報に基づき作成しており、既知または未知のリスク・不確実な要因等を含んでいるため、当社の実際の業績、事業活動や財政状態が、将来予想の内容と大きく異なる場合がありますが、そのような場合であっても当社は、将来予想の内容を更新または修正して公表・開示する責任を負うものではありません。



公式サイト・SNS等

[ホームページ](#)

[Twitter](#)

[YouTube](#)